

Let's キズナ

2022年3月1日号

大分市

完全
保存版

これまでも
これからも

2020大分市人権フォトコンテスト入選作品

おおいた人権啓発広報誌

Let's
キズナ

2003年度から毎年市内全戸に配布。
差別解消に向け絶賛発行中!

発行 2022年(令和4年)3月1日
お問い合わせ・ご意見・ご感想
大分市福祉保健部人権・同和対策課電話: 537-5618

『水平社宣言』から100年 ご存知ですか?

明治から大正時代になり、人々の自由・平等を求める運動が勢いを増す中、それまで長きにわたり、厳しい差別に苦し
み、耐えてきた被差別部落の人々は、差別からの解放を求める運動を進めていきました。

そして1922年(大正11年)3月3日に全国水平社を結成しました。その創立大会で読み上げられた宣言文が
「水平社宣言」であり、わが国で初めての人権宣言といわれています。

- ・「同情やあわれみに根ざした運動では差別はなくなる」
「われわれ自身から人間を尊敬することによって、自由と平等を求める」

これまでの政策では差別はなくなり、厳しい生活から抜け出すことができなかつたため、やむにやまれず被差別部落の人々が立ち上がったことが分かります。

- ・「人の世がどんなに冷たいか、人間を大切にすることが本当はどんなことであるかを知っているからこそ、われわれは、心から人生の熱と光を求め、その実現をめざすものである。」

差別の痛みがどれほどつらいかをよく知っている我々こそが、すべての差別をなくし、すべての人間がかり輝く存在として認め合える社会を作っていくんだという決意が込められています。

- ・「人の世に熱あれ、人間に光あれ」

差別をなくす熱い思いを持ち、誰もが希望を持てる明るい世の中であるように、という願いが込められています。

▲全国水平社創立大会チラシ
(水平社博物館提供)



▲全国水平社創立者たち(水平社博物館提供)



▲全国水平社の演説会で差別からの解放を訴える少年

水平社宣言の
しよさい
詳細はこちら



みのが
見逃さない!
差別書き込み



インターネットモニタリング中

インターネット上では、部落差別に関する悪質な書き込みや新型コロナウイルス感染症に関するデマやフェイクニュースなどが問題となっています。そのような書き込みを見て誤った認識や偏見を持ってしまうと、心の中に差別意識が芽生えてしまい、新たな差別につながります。このようなことから、インターネット上の誤った情報によるマイナスイメージの拡散を防ぐため、悪質な書き込み等を監視し、差別情報の早期発見や削除要請を行う「モニタリング事業」が、大分市をはじめ多くの自治体で実施されています。モニタリングは、誰もがインターネットを安心して使うために必要な活動なのです。◆西日本新聞(2022年(令和4年)1月5日)にて、大分市のインターネットモニタリング事業の取組が掲載されました。

おいでよ! ヒューレおおいた(人権啓発センター)

J:COMホールホール大分1階、ヒューレおおいた(人権啓発センター)は、大人から子どもまで同和問題(部落差別)をはじめとするあらゆる人権問題について学んだり、体験したりすることができる、大分市における人権・同和教育、啓発の拠点施設です。皆様のお越しをお待ちしています。



人権パネルの常設展示や特別展示を行っています。



妊婦や高齢者の擬似体験を通して、人権の大切さを学べます。



人権相談に応じています。お気軽にご相談ください。

J:COMホールホール大分1階
ヒューレおおいた(人権啓発センター)
TEL: 576-7593 FAX: 544-5708
開館時間/午前9時~午後6時
休館日/毎月第2・第4月曜日
(ただし、その日が休日に当たる場合は、その後の休日以外の日)
年末年始(12月28日~1月3日)



大分市人権イメージキャラクター「キズナズ」

ヒューレおおいたで
待ってるよ!

「人権に関する 市民意識調査」報告

大分市では、市民の皆様の人権・同和問題についての考え方を把握・分析し、今後の人権教育、啓発に関する施策を効果的に推進していくことを目的として、昨年度、3回目となる「人権に関する市民意識調査」を実施いたしました。

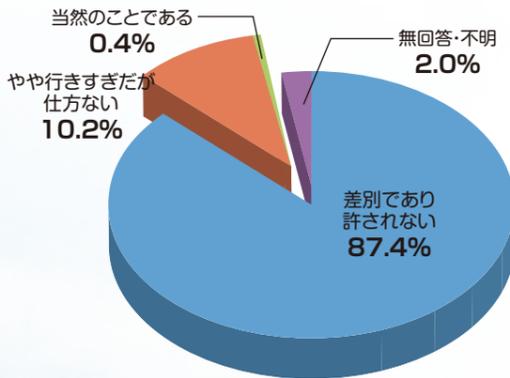
今回は、この調査結果の一部をご紹介し、検証したいと思います。私たちの周りには差別がなく、誰もが安心して暮らせる社会を築くために大切なことは…



1 コロナ差別について

新型コロナウイルス感染症に関して、次のような事例が起きました。

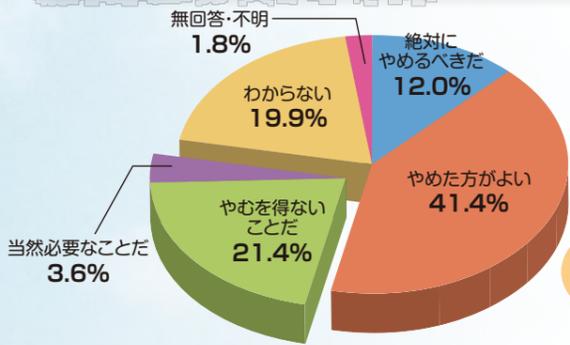
【事例：近所に住むAさんは看護師をしているが、勤め先の病院に新型コロナウイルスの感染者が入院していることが分かった。それから、近所の人たちはAさんを避けるようになり、ついには「帰宅せずに病院に寝泊まりせよ」といった投書がされたという。近所の人たちの対応について、あなたの考えに近いのはどれですか。(〇は一つだけ)



「差別であり許されないと思う」は87.4%であり圧倒的多数です。しかし、「やや行きすぎだが仕方ないと思う」「当然のことであると思う」を合わせると10.6%であり、事例にある医療従事者に対する差別行為を10人に1人が肯定しているという深刻な事実がわかりました。偏見や差別がなくならなければ、感染は収束に向きません。差別意識の早急な解消が課題です。

2 身元調査について

あなたは、就職や結婚の時に、その相手方などの身元調査をすることについて、どう思いますか。(〇は一つだけ)



本人に知られずに行われる身元調査は、差別につながる可能性のある重大な人権侵害行為ですが、「やむを得ないことだ」「当然必要なことだ」を合わせると25.0%と、4人に1人が肯定していることが明らかとなりました。身元調査は、個人の評判や風評等まで調査することから、何ら根拠の無いうわさや偏見などの誤った情報が流れてしまうことがあります。その結果、個人に計りしれない不利益を及ぼす可能性があります。

身近なところに差別があるんだね



知っていますか？ あなたの大切な個人情報を守る「本人通知制度」

近年、不正な手段を使って他人の住民票や戸籍を取得し、悪用する事件が多発しており、どうすれば不正取得の防止や差別身元調査が根絶できるかが問われています。本人通知制度は、本人の代理人や第三者に戸籍謄本や住民票の写しなどが交付されたとき本人にその事実を通知することにより、不正請求の早期発見や、個人情報の流失及び不正利用の防止・抑制を図ることを目的としています。

登録はこちらをご覧ください



大分市民の意識って…

どうなの？

3 同和問題(部落差別)について

あなたは、同和問題(部落差別)に関するところ、現在のどのような問題が起きているかと思えますか。(〇は一つだけ)(せ)

結婚問題で反対されること	47.2%	差別的な落書きがあること	10.2%
身元調査をされること	31.1%	ネット上において差別的な情報が飛びかっていること	9.1%
差別的な発言があること	28.9%	不当な利益を得ているなどと誹謗中傷を受けること	8.8%
就職・職場で不利な扱いをされること	23.3%	アウトティング行為により出自をさらされること	4.7%
同和地区への居住が敬遠されること	19.9%	その他	0.5%
地域の活動やつきあいで不利な扱いをされること	13.3%	特に問題は起きていない/わからない	41.7%

「結婚問題で反対されること」が47.2%で最も高く、次いで「身元調査をされること」が31.1%となっており、多くの人が現在もお部落差別が存在し、何かしらの問題が起きていることを認識しています。

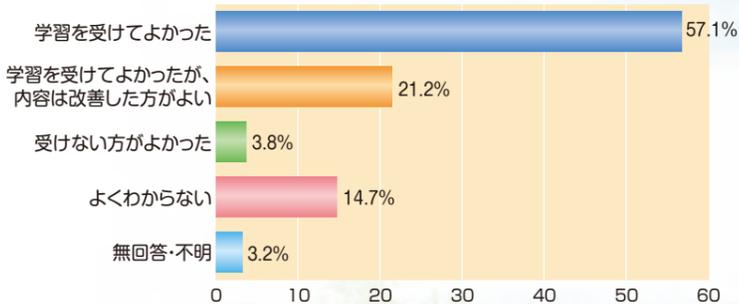
一方、「特に問題は起きていない/わからない」の回答が41.7%となっていますが、これは部落差別の存在に「気づいていない」だけかもしれません。今も私たちの身近なところで差別が存在していることを認識することが大切です。

差別をなくすためにはどうすればいいんだろう…



4 学習を受けてどう感じたか

同和問題(部落差別)の学習を受けたことについて、今どう感じていますか。(〇は一つだけ)



約6割の人が、「同和問題(部落差別)の学習を受けてよかった」と答えています。一方、「受けたくない方がよかった」は、わずか3.8%に留まっており、好意的な意見が多数を占めています。

学習を受けることにより、暮らしの中の偏見や差別に気づいたり、見抜いたりする力が身に付き、差別をなくす行動へとつながっていきます。誰もが安心して暮らしていくためには、差別に直面しても、「差別はNO!」と言える心を養うことが大切です。

学んで、差別をはね返す力を身につけることが大切なんだ!



人の世に熱あれ、人間に光あれ

1922年(大正11年)3月に、わが国初の人権宣言と言われる「水平社宣言」が出されて、今年で100年を迎えます。この宣言には、長い歴史の中で不当な差別を受けてきた人々の痛切な思いとともに、すべての人があらゆる差別を受けることなく、人間らしく生きていける社会の実現を願う気持ちが含まれています。

しかし、2016年(平成28年)12月に施行された「部落差別解消推進法」に「現在もお部落差別が存在すると明記されたように、今だに部落差別は無くならないばかりか、インターネット上の差別書き込みなど、新たな問題も起きています。差別は、する人がいるからなくならないのであり、**する人の意識が変われば差別もなくなっていく**ます。次世代へより良い社会を築き、引き継いでいくためにも、今を生きる**私たち一人ひとりが、差別をなくす主役であるという認識を持つことが**解消への第一歩となります。

長い歴史の中で、差別に苦しみ、耐え忍んできた被差別部落の人々がやむにやまらず立ち上がり、「水平社宣言」が出されました。この宣言に込められた思いに寄り添い、「差別を許さない」というメッセージを一人ひとりの行動で伝えていきましょう。